

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書

令和4年 6月 13日

川口市長 殿

提出者

住 所 埼玉県川口市朝日5丁目4番18号  
氏 名 常木鍍金工業株式会社  
代表取締役社長 野中真宏  
電話番号 048(225)4511

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	常木鍍金工業株式会社 川口工場
事業場の所在地	埼玉県川口市朝日5丁目4番18号
計画期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	E24 金属製品製造業
②事業の規模	1300 百万円
③従業員数	78名
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙

(日本工業規格 A列4番)



特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
廃棄物処理責任者   特別管理産業廃棄物管理責任者   製造部			
特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃シアン	廃酸
	排 出 量	1.51 t	105.13 t
	（これまでに実施した取組） ・ 毎月の使用量調査 ・ 環境目標・目的に設定し、全社員に周知させる。		
② 計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃シアン	廃酸
	排 出 量	1.48 t	103.03 t
	（今後実施する予定の取組） ・ 毎月の使用量調査 ・ 環境目標・目的に設定し、全社員に周知させる。		
特別管理産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	（分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		
② 計画	（今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）		

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
(今後実施する予定の取組)			

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃シアン	廃酸
	全処理委託量	1.51 t	105.13 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.51 t	105.13 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組)			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	廃シアン	廃酸
	全処理委託量	1.48 t	103.03 t
	優良認定処理業者への処理委託量	1.48 t	103.03 t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組)			
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度(令和3年度)実績】		
	特別管理産業廃棄物 排出量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	106.64 t	
	(今後実施する予定の取組) ・2020年3月10日に電子マニフェストシステムに加入 2020年4月から運用開始		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トン以上の者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

図1「めっき加工フロー図」

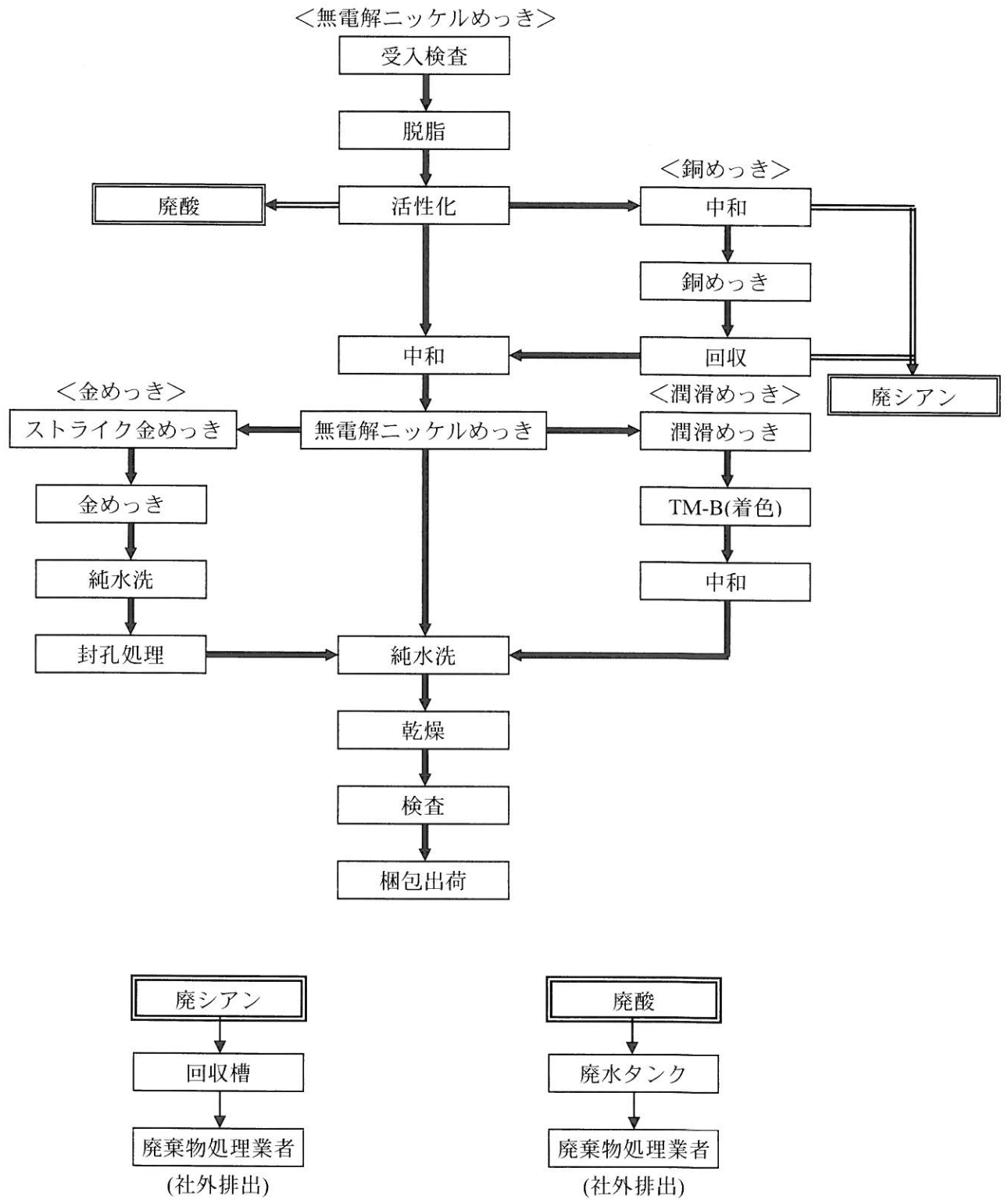


図2「排水処理フロー図」

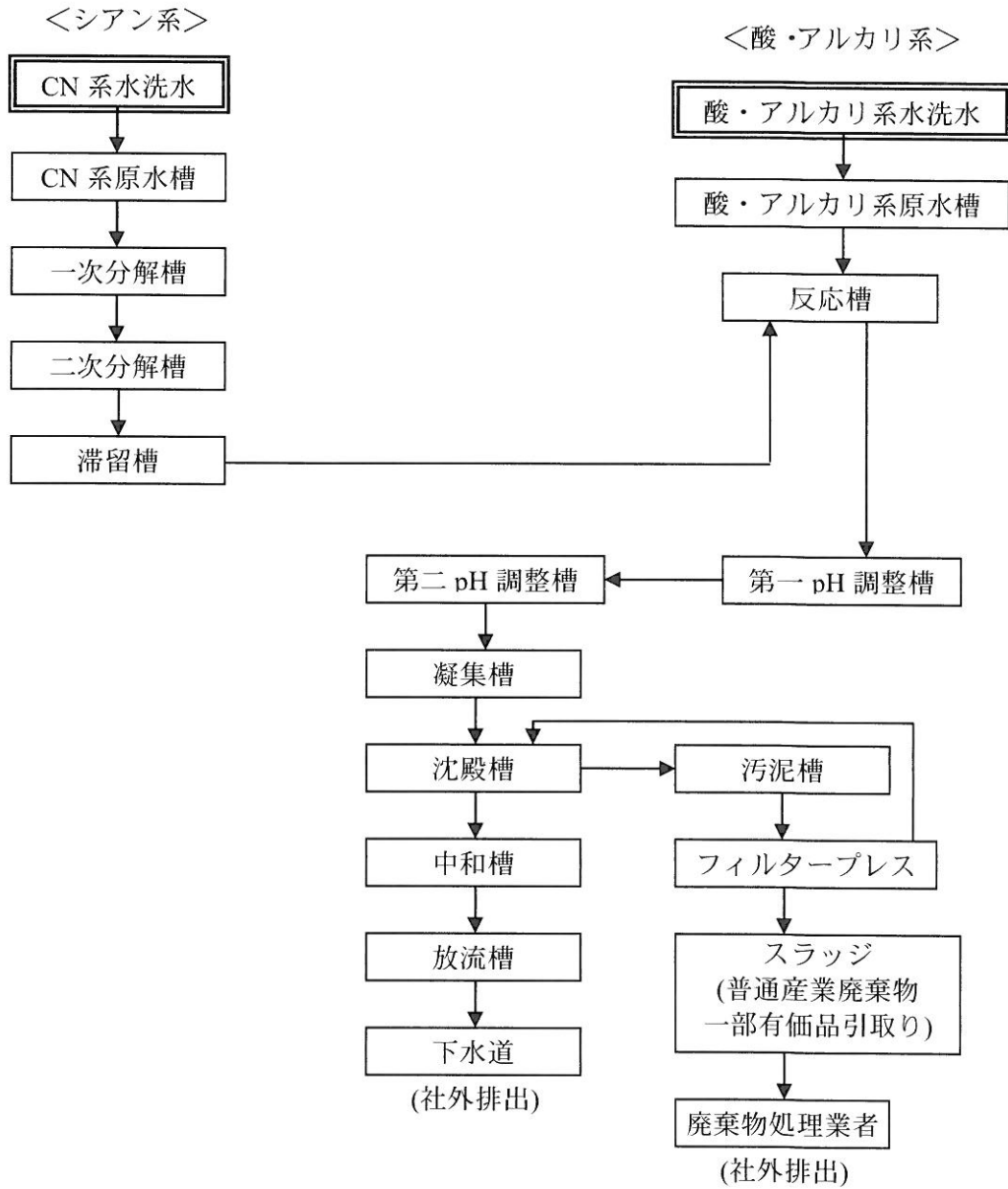




図3 工場配置図

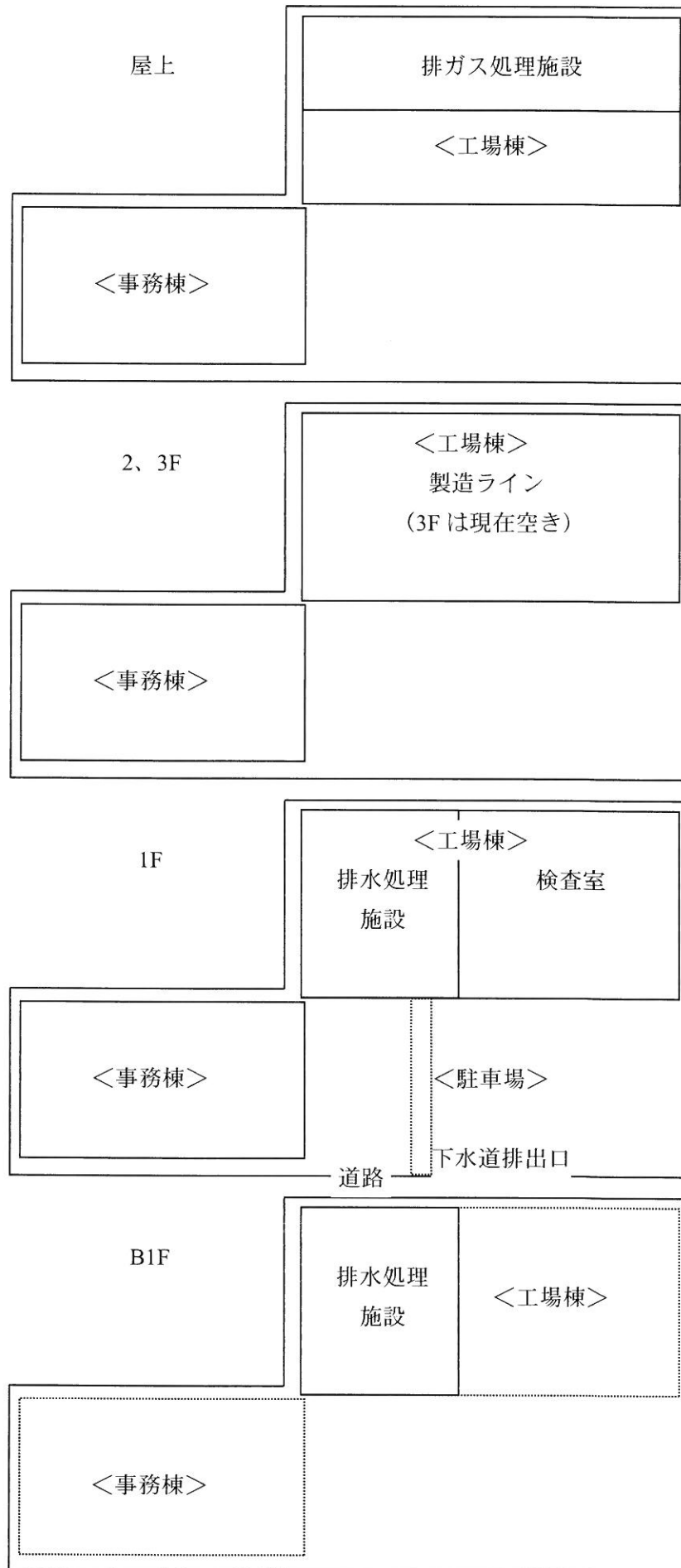
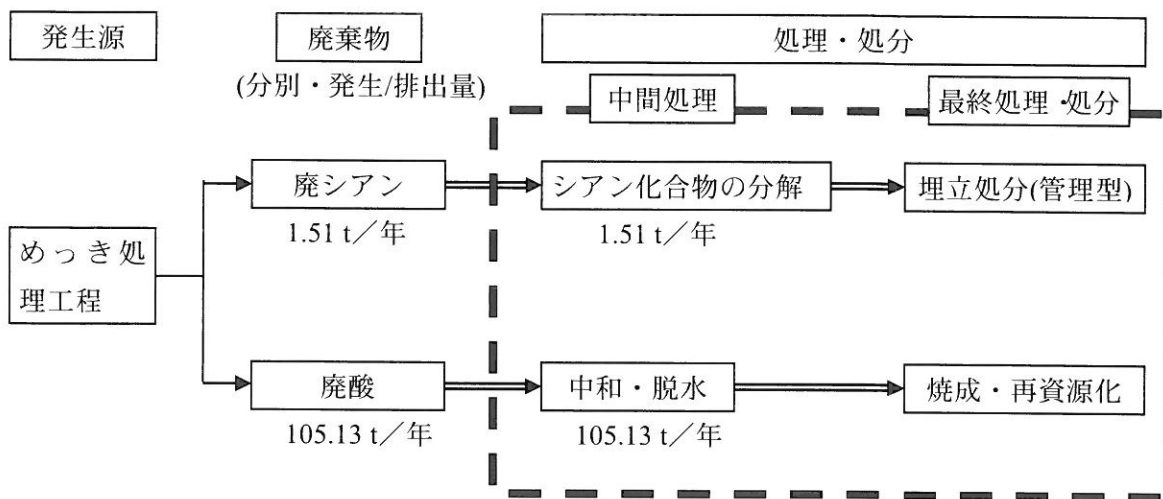


図4「特別管理産業廃棄物処理フロー図」



- (注)① 3種類に分別の上、業者に引渡し、中間処理及び最終処理・処分を委託する。  
 ② 発生/排出量は、令和2年4月から令和3年3月までの年間実績とする。  
 ③  $\Rightarrow$  特別管理産業廃棄物処理の流れ  
 ④  $- - -$  委託処理部分の流れ

表 2 特別管理産業廃棄物の種類別発生・処理状況

廃棄物の種類	発生源	性状	発生量(構成比) [t/年]	中間処理及び最終処理・処分
廃シアン	めっき処理工程	液状	1.51 (1.4%)	分解処理⇒埋立処分(管理型)
廃酸	めっき処理工程	液状	105.13 (98.6%)	中和・脱水⇒焼成・再資源化
合計(R3/4月～R4/3月)			106.64 (100.0%)	

表 3 特別管理産業廃棄物の種類別性状

廃棄物の種類	性状(含有成分等)
廃シアン	銅めっき時の中和槽、回収槽にて発生する高濃度シアン化カリ、シアン化ソーダ溶液。(液状)
廃酸	活性化工程時に使用した塩酸、フッ化アンモニウム溶液、硫酸、硝酸。(液状)

表 4 特別管理産業廃棄物処理施設の設置状況

廃棄物の種類	保管能力	設置年月日	処理施設(製造ラインに設置)
廃シアン	1800L	1995年4月	中和槽、回収槽
廃酸	3000L	1995年4月	廃水タンク